

た左手、その両手を腹の前にして、腹のふくれる様を表現するために両手を前へ出す。

III

身内 「親戚」と同じ

味方 五指の指頭を右にさし、前向けにした左手掌に、五指の指頭を左にさし内側にした右手掌をびったり胸の前でつけ合わす。

見切る むつかしい―諦らめる。

見事 感心―腕前。

未婚 結婚―まだ―独り。

湖 「池」の手まねの表現を大きく。

見知らぬ人 「他人」と同じ手まね。

水 (イ)五指の指頭を左にさし掌を上向けた右手の五指を波打たせながら左から右へと流して行く。(ロ)五指の指頭を上をさし掌を左に向けた右手を右頬すれすれにして、前後に僅

かに動かす。

店 五指の指頭を前方にさし、掌を上向けた両手を前で左右につけて並らべてから、両手を左右に離して行く。物品を前に展げたこと。

未成年 齡―二十一―未滿―人々。

晦日 (イ)月―終り。(ロ)年―終り。

乱れる 掌を上向けた左手に、掌を下向けた右手の両手を上下に向い合わせ、交互にぐるぐるとかき廻わす。乱れ混雑の状態。

道 五指の指頭を前方にさし掌を左に向けた右手、五指の指頭を前方にさし掌を右に向けた左手、この両手を平行にして前方へ道のくねりを表わして行く。

未知 (イ)「全く知らぬ」の手まね。(ロ)「未知の人」「他人」と同じ手まね。

道程 道―遠い―いくら(数)。

皆 「凡て」と同じ手まね。

孤児こなし 両親—ない—子供。

港 掌を左側にし指頭を前方にさした人差指の右手、掌を右側にし指頭を前方にさした人差指の左手。この両手を平行にして共に人差指をかぎ形に曲げる。港の防波堤の形。

見習 (1)見る—真似—勉強。

見張り 「監督」と同じ手まね。

未満 五指の指頭を右にさし掌を下に向け
た左手の下に、五指の指頭を上をさし掌を内
側にした右手を、僅かの隙をおいてT字形に
する。その線(左手)に、達しないこと。

土産 五指の指頭を右にさし掌を上に向け
た左手のかなりの上方で、五指の指頭を集め
合わせて掌を下に向けた右手を物をぶらさげ
た心持で両手を僅かに上下させる。紐でくく
った土産物を左手にのせ、右手でぶらさげた
姿。

明後日 二の敷(指頭を上をさした中指と
人差指)を肩の辺りから前方へ押し出す。
「二つ未来」のこと、または「寝る—二つ未
来」

明日 「明後日」の要領。一の敷(指頭を
上にさした人差指)を肩の辺りから前方へ押
し出す。「一つ未来」のこと。または「寝る
—一つ—未来」

身寄り (1)たよる人々。(2)親戚—友人。(3)
「身寄りが無い」は「孤独」の手まね。

未来(今後、以後) 五指の指頭を上をさ

し掌を前向けに
した右手を右肩
辺りから前方へ
押し出すように
する。舐より前
方を未来とする。

ミルク 「乳」と同じ手まね。

